



予測困難な時代を生き抜くために

校長 筒井 啓介

今年の夏は 7 月中旬以降、一気に暑さが厳しくなり、猛暑日(最高気温 35℃以上)の地点数がハイペースで増加しています。また、酷暑日(最高気温 40℃以上)の地点数は過去最多となり、記録的な暑さとなっています。

まさに地球温暖化が進み、地球沸騰化の時代（2023 年に国連の事務総長、アントニオ・グテレス氏が地球の危機的な状況を世界に伝えるために使った言葉）になったことを実感します。

このまま地球温暖化が進むと 21 世紀末には世界の気温が今よりも 3.3～5.7 度も高くなると考えられています。仮に、そのような状態になれば、大雨の増加や台風の大型化、高温や干ばつによる農作物への被害拡大、海面の上昇、熱帯亜熱帯の範囲拡大など、地球的規模の影響が起こると予想されています。

まさに、他人ごとではなく私たち一人一人が自分ごととして考え、日々の生活で地球温暖化防止に向けた取り組みをする必要があります。また、これからの社会では国境を超えた様々な国の人々と地球全体の問題として、対応策を考えていく必要があります。

少し話が変わりますが、新型コロナウイルスの蔓延や相次ぐ自然災害、急速なテクノロジーの発達など、現代は VUCA（予測の難しい時代）だといわれています。このような時代を生き抜くためには次のような力が必要だと言われています。

- ・情報を収集する力・処理する力
- ・迅速に意思決定する力
- ・臨機応変に対応する力
- ・円滑なコミュニケーションを取る力
- ・自ら課題を解決する力
- ・新たな価値を創出する力

ざっと見ると、これまでに求められてきた点数や偏差値のように目に見える力（テストの点数とは違い、数値で表すことが難しい力で非認知能力と呼ばれます）ではありません。

これからの時代を生き抜く子どもたちのために、教科学習の基礎基本をしっかりと身に付ける（認知能力を基盤としたうえで）とともに、非認知能力をしっかりと育めるように教職員一丸となって教育活動を推進して参りますので、保護者・地域の皆様にも引き続き山手台中学校の教育推進にご理解・ご支援を賜りますようお願いいたします。

「流れのなかで」

宮澤 章二

聞けるときに聞いておかないと 決して聞けないコトバがある
言えるときに言っておかないと 再び言えないコトバがある
つかめるときにつかんでおかないと 死ぬまで無縁の宝がある
みがけるときにみがいておかないと 光らぬまま朽ちて行く宝がある
得たものを失うその数よりも得られずに失われたものたちの数の多さ
わずかの知恵とわずかの努力でそれらに触れ得たかも知れないのに
新春の光がなでる新しい日記は最初の頁から最後の頁まで純白
記せるときに記しておかないと二度とは記せない記録がある

この詩は宮澤章二氏の「風鈴抄」という詩集に収められた「流れのなかで」という詩です。「後悔」という言葉があります。こうしておけば良かったのに…、ああしなければ良かったのに…と後になって反省することです。

私自身、「後悔」のない人生を送るというのはとても難しいことのように思いますが、みなさんはどう思いますか。テストのたびにこの言葉に出会っている人、結構多いのではないのでしょうか。

でも、この詩の中に、あるヒントが隠されているように思うのです。
「あの時もう少しきちんと聞いておけば良かった…」
「あの時ちゃんと話しておけば良かった…」
「あの時チャレンジしておけば、もっと、自信につながったのに…」

みんな「後悔」には「あの時こうしておけば良かった」という「あの時」という言葉がくっついていて、この「あの時」っていったい、いつなのでしょう。実は、この「あの時」というチャンスを逃さないこそが、後悔しない人生を送る一番のポイントだと思います。

そうは言っても、これってすごく難しいですね。だって、その時気づかずに、後になって気づくのが後悔というものなのですから。いつチャンスが来るかわからない……とすれば、「今がチャンス」と、「今」を常に意識することを大切にしてみたらどうでしょう。後悔しないためには「あの時」である「今」を頑張ることしかないように思います。「後悔」を創り出さない「今」というチャンスを大切にする生活を送っていきましょう。

■「アイシティ eco プロジェクト」に取り組んでいます

使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収し、その売却代金を「日本アイバンク協会」へ寄付する取り組みに生徒会が取り組んでいます。山手台中学校に設置された回収 BOX に約 9990 個もの空ケースが集まりました。

たくさんの生徒の皆さんが力を合わせて取り組んだ成果が認められ、感謝状が贈られてきましたので下記に紹介させていただきます。

